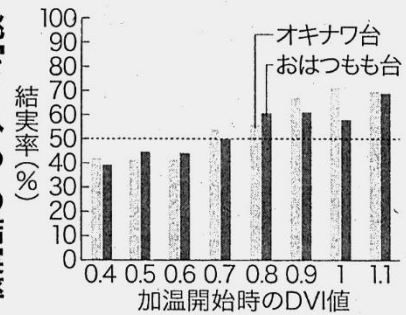


# 農業技術 フルーツ

近年、温暖化の影響により休眠覚醒に必要な冬季の低温が確保しにくい年があり、ハウス桃栽培では加温開始時期の判断が難しくなっています。また、これまでの研究で、「日川白鳳」では低温要求量が少ない「オキナワ」を台木として用いることで、従来の「おはつもも」台木より開花が早まることが明らかとなっています。

## 「オキナワ」台木桃「さくひめ」 「おはつもも」より安定結実

桃「さくひめ」の結実率（2018～20年産平均）  
べ、低温要求量が少なく、温暖化に対応できる品種として注目されています。そこで、「オキナワ」を台木とした「さくひめ」の加温開始可能時期の判断法を検討しました。



温開始可能時期のDVI値（休眠覚醒に役立つ温度がどれだけ積み重なったかを数値化した指標）が0・7でした。さらに、DVI値が0・7以上に達した時点で加温すると、結実率は50%以上となり、「オキナワ」を台木に利用することで、「おはつもも」台木より安定して結実を確保できることが明らかになりました。

その結果、安定生産のための加温開始可能時期を「加温開始後40日以内に開花率が50%以上」と定義すると、「オキナワ」台木を利用した「さくひめ」の加温開始可能時期は、従来の「おはつもも」台木よりも約10日早まる見込みです。

（長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 ピワ・落葉果樹研究室主任 研究員 川良将一朗）